

ひとりの犠牲者もださない

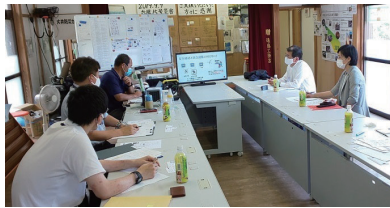
台風災害から1年 南房総市 かわせみ (自主防災会)



日本共産党の加藤英雄千葉県議、さいとう和子前衆院議員は8月25日、昨年、台風の直撃を受けた南房総市の座間好雄消防防災課長、大井地区自主防災会「かわせみ」の芳賀裕事務局長らと懇談しました。「かわせみ」と、同市のとりくみを紹介します。

安否・健康確認、情報収集・防災無線、ソーラー発電、飲料水確保などで、可能な限り自宅生活の支援をめざす

大井地区は約120世帯280人。昨年の災害時、電気、電話、道路が不通となるなど孤立状態となりました。地区の自主防災会「かわせみ」は、集会所に災害対策本部を置き、保有している発電機や給水車をフル稼働。各家庭の米や食材をつかい連日約100食分の弁当を高齢者らにとどけました。その経験をいかし、地区独自の防災計画を見直して、安否確認・情報収集、ソーラー発電など停電対策、防災無線整備、飲料水確保など可能な限り自宅での生活支援をめざしています。



災害は必ず起こる

芳賀氏は「災害は必ず起こる。地域にあった防災計画、顔が見える日頃のつながり、高齢化のもとで地域の担い手づくりが重要」と強調していました。

市独自に自主防災組織補助金を交付

南房総市は、自主防災組織に対して防災倉庫、発電機、備蓄食料・水など備品購入と地区で開設する一時避難所のトイレ様式化改修工事、エアコンの整備などへの補助金を交付しています。避難所でつかう新型コロナウイルス感染防止の消毒液・マスク等も購入可能です。同補助金は、事業費の2分の1（上限20万円）で、昨年度は39団体が申請し、今年度は、50団体分（1000万円）に増額しています。座間課長は「災害発生直後は、行政からの支援が機能しないかもしれない。共助が注目されているので、予算の確保に努めている」と述べました。



▲地区で整備した防災無線



◀ソーラー発電を導入し小型バッテリーに蓄電して各家庭への配布を計画中



みわ由美
(松戸市)



加藤英雄
(柏市)